

災害時、外来看護師としての役割を果たすための取り組み

～「UGOKERU カード」を作成して～

外来:○横溝妙子 国武信子 坂元彩海 堀江とも子 松尾和宏

【目的】

近年、各地で災害が多く発生し、朝倉地域も昨年豪雨水害を経験した。災害発生時には想定外の出来事が頻発し、その対応が遅れると混乱を招く。医療現場における初動のポイントは速やかに指示命令機能を持つ本部を立ち上げ、職員・患者・施設の安全を確認し情報収集を行い、対応方針を決定することである。

災害拠点病院として当院には防災マニュアルがあり、年2回の防災訓練が行われている。外来は、患者数把握はすぐには困難であること、その上、外来は院内災害時には出口、院外災害時には入り口となるためそれぞれ異なった対応が必要となる。防災訓練時アクションカードを使用したのが、その字が小さく見辛いことや、記載内容の意味を考えなければならぬことが発生した。

上記のことを考え、災害時の動きを見直す第一の取り組みとして、災害時（火災時）にスムーズに動けるようなカード（UGOKERU カード）を作成した。災害基礎知識の勉強会、UGOKERU カードを使用した外来独自の防災訓練、机上訓練を通しUGOKERU カードや空床表示の仕方の再検討を行った。アンケートを実施しUGOKERU カードの効果が明らかになったため、結果を報告する。

【方法】

- ・研究期間：平成30年4月1日～平成31年12月21日
- ・UGOKERU カード作成：平成30年4月1日～平成30年11月20日
- ・アンケート期間：平成30年4月1日～平成30年12月15日
- ・勉強会実施：平成30年11月2日 ・自部署避難訓練：平成30年11月30日
- ・自部署机上訓練：平成30年12月11日、12日

【結果】

アクションカードで動けると回答したスタッフは32%、動けないと回答したスタッフは68%であった。外来で平日の診察室は25部屋近く寡動している。役割決めの時間短縮のため初期消火を外科担当、患者誘導を内科、処置室担当と決め、各診療科リーダーが患者数・スタッフ数の把握を行うように役割を明確化した。このことにより、役割が事前に決まっているため心構えができるなど意見が聞かれ100%の賛同を得ている。

防災訓練、机上訓練を通し、それぞれのカードでは他のスタッフの行動がわからないと声が聞かれたためUGOKERU カードに加え、各科の動きを一覧表にまとめた。これにより、災害時の流れがより分かったと回答したスタッフは40%より87%まで上昇した。

【考察】

勉強会、災害訓練、机上訓練を実施したが、数回の訓練で全てのスタッフに規定の災害対応の自信を持たせることは困難であった。災害は不確実に発生しその対応には臨機応変さが求められるがその基盤となる役割分担、行動の明確化、動きの標準化がとれるようカードの作成をしたことは今後円滑に災害時の対応をする上で意義のあることであったと考える。